中央教育審議会初等中等教育分科会学校安全部会
（第6回　2021.9.22）

資料２

家庭・地域との連携について

岡山教育事務所生涯学習課
課長（生涯学習班長）
木 下　史 子

犯罪からの子どもの安全を守るe-learningシステム

大阪教育大学が、小学生向けの安全教育教材として開発

- 発達段階別の教材（低学年、中学年、高学年用）。登下校時の様々な場面において、自分がどう安全に行動するかパソコンで 選択して回答する。
- 家庭との連携：保護者がどんな学習をしたか自宅のパソコンを使って閲覧可能。

ももっちといっしょにべんきょうしよう！（低）

あんぜんきょうしつ 6号

解説編

ねん　ばん　なまえ

どんなことに気をつけたらよいか、考えて〇をしよう

ショッピングモールに行った時 ①

ショッピングセンターや駅など不特定多数が集まる場所は、他人への関心が薄い。万が一声かけしている姿を見られても一人で過ごす子どもでは「迷子かと思った」と言い訳されてしまいます。

エレベータに一人でのった時 ①

エレベータは密室なので、危険を感じたら、全てのボタンを押して最寄り階で降りる。壁を背にして立つことも大事です。また、階段の踊り場も死角になりやすい場所です。

げんかんのカギをあける時（おるばん） ②

誰もいない家に「ただいま」と声をかけることによって、家の中に家族がいると思わすことができます。カギをあけるまえにも、周囲に誰もいないか確認することも大事です。家のカギは見せびらかさないようにしましょう。

外でトイレにいく時 ②

公衆トイレは誰でも使える場所です。特に入口が一つのトイレは、男女が入れるので待ち伏せされて危険にあうかもしれません。公園だけでなく、駅やスーパーのトイレを使うときにも注意しましょう。

2

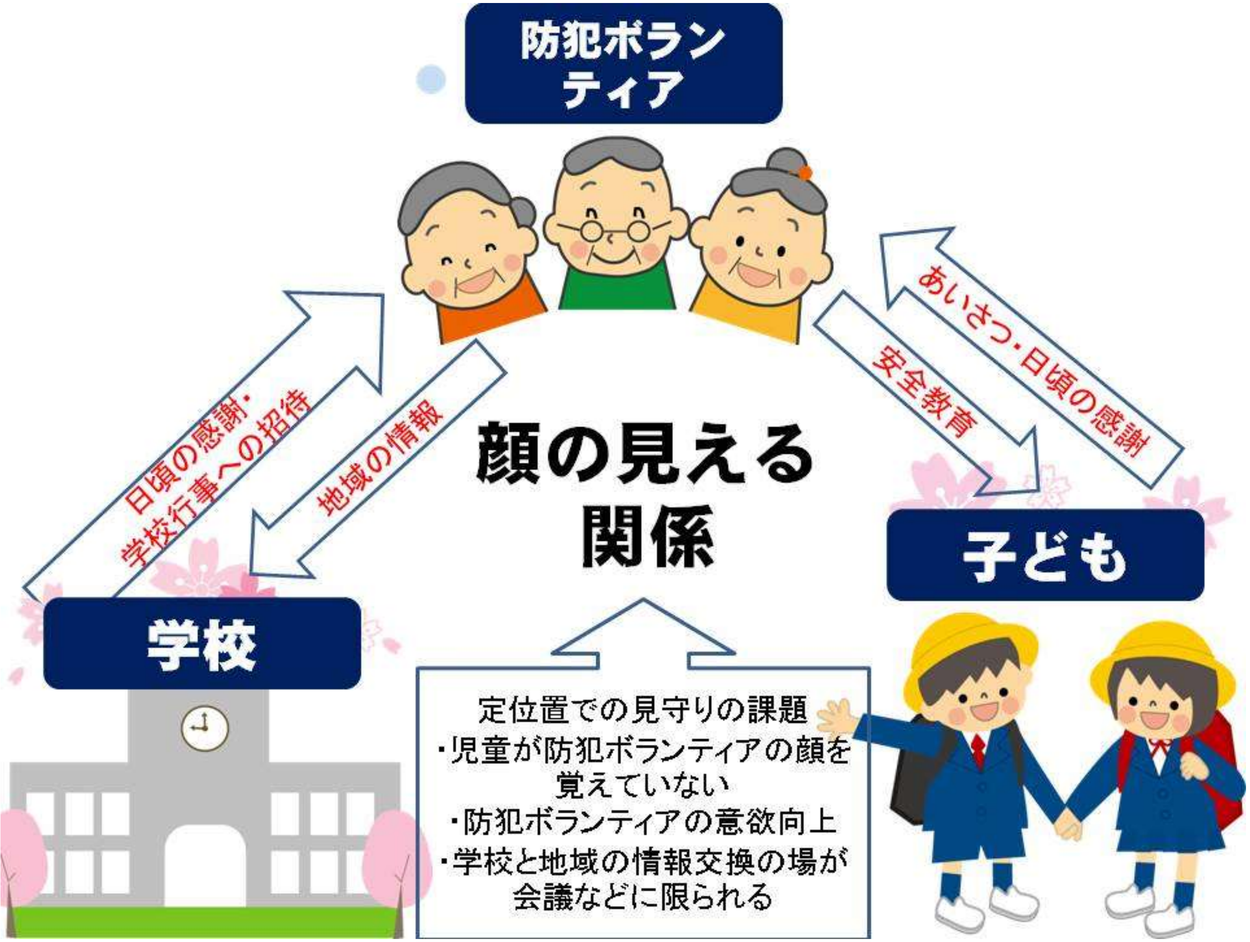
©大阪教育大学

ワークシート教材の活用

- 隙間時間（10分程度）で取り組める。低学年は〇×方式。
- 家庭で振り返り学習できるよう保護者への防犯に関する解説付き。**家庭との連携**

アサガク(朝学習)×防犯

・防犯ボランティアによる始業前の時間(朝学習の時間)を活用した安全教室
→学校：地域の防犯事情に詳しい防犯ボランティアによる効果的な安全教育
新入生：地域の見守りがあることにより安心して登下校ができる。
防犯ボラ：新入生と顔が見える関係になり活動のモチベーションが高陽する。



入学準備×通学路点検

新1年生と保護者を対象にした安全教室

保護者：登下校の安全に高い関心。交通安全、防犯の視点をもって通学路点検。
子ども主観のアングル。子ども110番の家など地域防犯の取組を知る。

子ども：入学前に通学路における危険を知り安全に登下校できるよう学ぶ。

防犯ボラ：新1年生の把握ができる。

→地域学校協働活動の一環として「子どもの安全」について取り組む。

学校運営協議会×学校安全

浅口市立鴨方東小学校（平成30年度）

・第2回学校運営協議会で「地域における子どもの安心安全」が話題となる。

・熟議「地域みんなで子どもの未来を考えるワークショップpart3」
　教職員，PTA役員，地域住民約40名が「地域における子どもの安全安心」をテーマに課題や対策について熟議を実施。

・「かもひがし地域安全マップ」作成のためのフィールドワーク。

学校運営協議会×学校安全

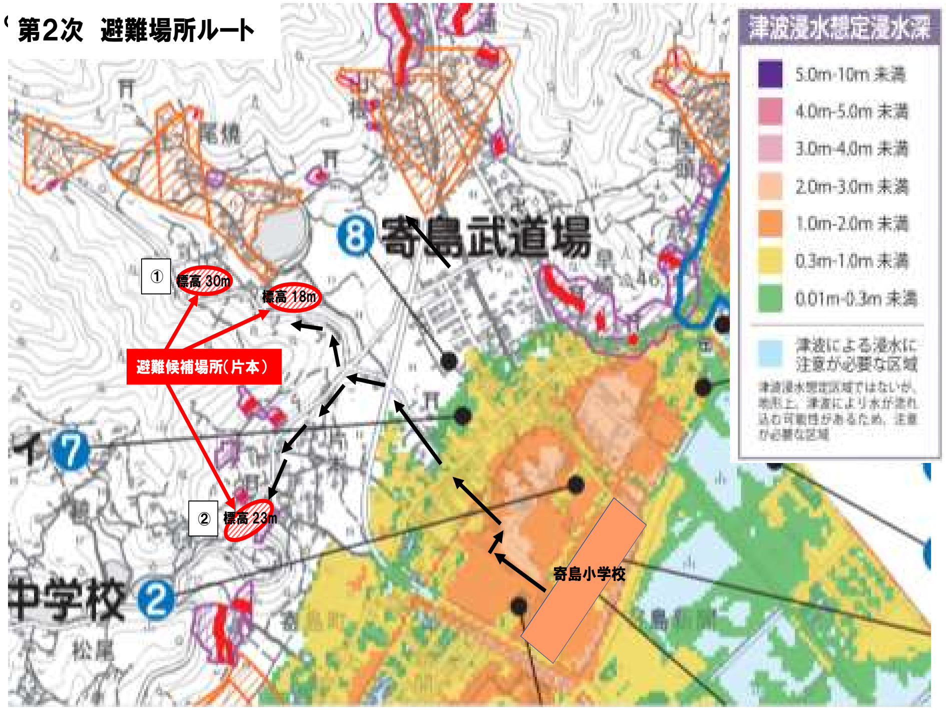
浅口市立寄島小学校（令和2年度）

・避難場所が工事中のため、市防災部局と相談して代替の候補地を選定する。

・第1回学校運営協議会で「避難場所」「登下校の安全」等を協議し、地域住民からの意見を伺う。

・避難訓練で消防署から外部評価を受ける。

第2次　避難場所ルート

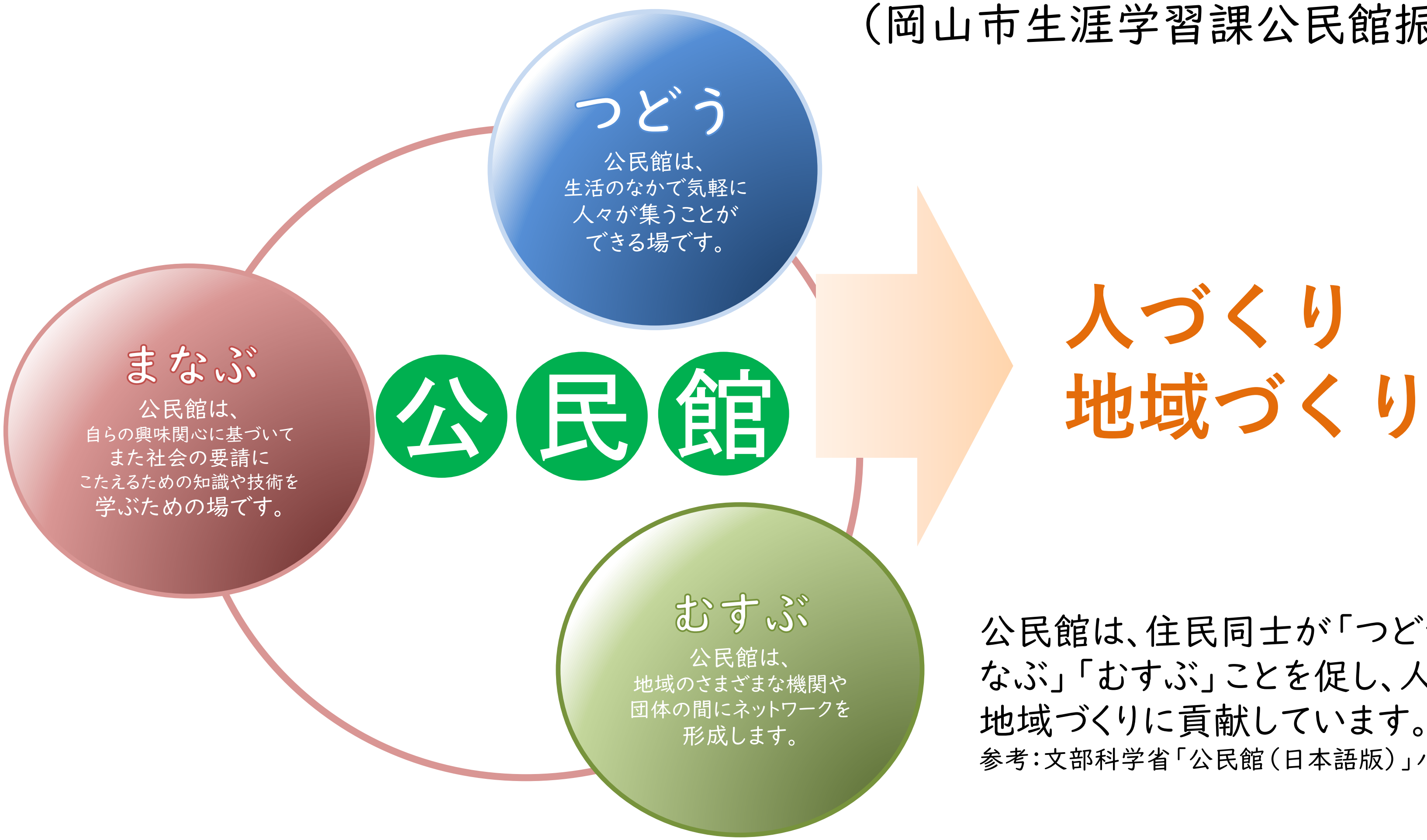


①　付近で避難できそうなところ

②　付近で避難できそうなところ

公民館×学校安全

・公民館は社会教育法によって市町村が設置している施設。
・7つの重点分野（共生のまちづくりの促進、環境意識の高揚、健康づくりの支援、男女共同参画の推進、子育て・青少年健全育成、高齢者の仲間づくりと学習機会の提供、安全・安心ネットワーク活動との連携）と据えて、地域課題を解決するための人材育成や住民による地域づくりの推進、地域の文化力を高めるようなESD活動を推進。
（岡山市生涯学習課公民館振興室）



公民館は、住民同士が「つどう」「まなぶ」「むすぶ」ことを促し、人づくり・地域づくりに貢献しています。
参考：文部科学省「公民館（日本語版）」パンフレット

公民館×学校安全

公民館と学校園の連携のススメ

地域と学校園がパートナーとして、共に子どもたちを育て、そのことを通じてこれからの地域を共に創っていくことが今まで以上に求められています。

“より良い学校教育を通じてより良い社会を創る”という目標を学校園と社会が共有し、連携・協働しながら、新しい時代に求められている資質・能力を子どもたちに育む「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、地域と学校園の連携・協働の推進が重要です。

そこでお勧めしたいのが地域の皆様と共に進める「**公民館**」と「**学校園**」の連携です。

公民館は、地域の学習、活動の拠点であり、地域全体で子どもたちの成長を支えていく活動をする上で、重要な施設です。岡山市では、市内全中学校区に公民館を設置しており、各館に社会教育主事などの社会教育の専門資格を持った職員を配置しています。こうしたことから、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、公民館に**学校園の重要なパートナー**としての役割が期待されています。

このリーフレットには「４つの事例紹介」と「公民館と学校園の連携のヒント」を掲載しています。事例紹介では連携の参考となる様々なパターンを、連携のヒントではポイントとなる点をまとめました。

地域の方々、公民館・学校園関係者の参考になれば幸いです。

岡山市教育委員会　（岡山市社会教育委員会議）

事例紹介４　高島公民館・高島小学校の取組

小学校の理科の授業と公民館の防災講座を連動

社会のつながりの中で学ぶ ＝ 地域全体で子どもたちの学びや成長を支える

	学校	公民館
目的	「社会に開かれた教育課程」の実現・充実	社会教育の観点から地域課題の解決やSDGs の達成に取り組む
メリット	**学校の学びを実生活につなげる** 「理科 × 防災」は、児童が教科で学習したことを生かす活動が設定しやすい。学習したことを生活の中で生かすことは、学習内容をより定着させるだけでなく、活用する力の育成にもつながる。 実践的な防災対応能力の育成	**子どもから大人までの多様な世代がつどい、地域住民同士が学び合う**ことで、地域の防災意識が高まる。地域を知ることで地域に愛着が持てる。地域住民にとっては、子どもへ伝える機会になる。 児童が教科で学習した後は興味を引きやすい。先生からの声かけが、内発的動機づけに!

防災講座「災害想像ゲーム DIG（水害編）」は、高島小学校区の白地図に、参加者同士が話し合いながらペンやシールを使って、町の基本情報（道路、川、避難所等）や地域の人の情報などを書き込んでいく。
この講座で、自分たちの住む地域の①特性を理解する ②起こり得る災害をイメージしやすくなる、災害を**より具体的なものとしてとらえる**ことを狙いとしている。

自分の命は自分で守る!

［参加者からの声］
- あぶないところがわかった。逃げる場所がわかった。あぶなくないところがわかった。
- 地図を使って避難経路をたどってみたり、避難できそうな場所など、災害時に役立つ場所を記入してみたのは、今後に生かせそうな活動でした。
- 子ども中心に防災について具体的に考える事ができて良かったと思います。
- 子どもたちが積極的に参加して良かった。子ども自身の気づきにつながったと思う。

★当日は、小学生・保護者・地域住民・親子ボランティア・おかやまバトン（岡山大学のサークル）の参加や、町内会長のFさんも出席。Fさんは、５月に行った岡山大学理学部の鈴木茂之教授による災害リスク調査にご協力いただき、その際に撮影した写真の解説をしてくれました。平成30年西日本豪雨災害でがけ崩れが起きた場所のことや、溝に落ち葉がつまっていると水があふれるから日頃からの掃除が大事だということを聞くことができました。

■小学校の先生からのコメント
事前に公民館が手配したハザードマップを配付した時の子どもたちの反応がすごかったですね。自分が住んでいるところのことは結び付きやすく、まさに実生活に引き寄せられた瞬間でした。

■社会教育委員の意見
- 「**学んだことが生活の中で生きている**」ことを**子どもたちが実感**できる素晴らしい取組。自分の地域でも実施してもらいたい。
- 公民館は公民館、小学校は小学校、というような取組の方法ではなくて、**これらを掛け算することにより、**子どもたちの学びの深まりという点で**非常に効果的**になると思う。
- **継続性**を持たせることが重要。地域協働学校の学校運営協議会で議題にし、「**チーム**」で**取り組む**と良いのではないか。

公民館×学校安全

岡山市立高島公民館の事例

- 小学校6年理科「変わり続ける大地」の授業で地区のハザードマップを確認する。
- 公民館講座で「災害想像ゲームDIG」を通じて、自分たちの住む地域の特性や災害リスクを理解する。町内会長等の地域住民から、過去の被災状況等を保護者と一緒に聞く。

平成30年7月豪雨・岡山県倉敷市真備町

被災後の取組（一部抜粋）

【平成30年度】
・兵庫県震災・学校支援チーム(EARTH) 延べ81名受入（7月～9月）
・教職員向け水害タイムラインづくり研修
・平成30 年7 月豪雨災害における対応検証報告書
【令和元年度】
・災害応急対応キャラバン：全市町村（政令市除く）教委主催の防災研修
被災校長講話・EARTH員による演習・防災部局説明
・県立学校防災力パワーアップ：専門家が立地する災害リスク調査
【令和2年度～】
・教職員による災害時相互応援体制構築：**岡山版EARTH**の発足予定

兵庫県震災・学校支援チーム(EARTH)
防災・減災に関する専門的な知識や実践的な対応力を備えた教職員チーム（平成12年発足）。大災害発生時に、避難所となった学校への支援（避難所開設・運営、学校の早期再開、心のケア等）を行っており、多数の派遣実績がある。平時には、県内外・海外への防災教育や防災体制に係る講演等を実施している。現在、防災教育推進指導員養成講座（上級編）修了者した教諭、主幹教諭、養護教諭、栄養教諭、学校事務職員、240名に加え、カウンセラー3名を特別構成員として243名で活動している。
　全国に同様の組織として、熊本県学校支援チーム（平成30年）、災害時学校支援チームみやぎ（令和元年）、三重県災害時学校支援チーム（令和3年） が設立されている。（兵庫県教育委員会HP）